【レース展望】

主催者として、正直このコースを作りあげられた事自体が既に夢が叶った瞬間である。

そんな喜びの中、そのコースを、日本中からトップ選手が集い、頂上決戦を繰り広げることとなる。

ファイル上では、173km D+14000mなのだが、試走すればするほど、実際とのズレに気付く。
おそらく実際の距離と累積は「178km D+16000m前後」と言ったところだろうか。

過去世界中を見渡しても、そんなハードスペックな大会は聞いたことがない。

大袈裟ではなく、世界一を謳っても過言ではないだろう。

そんなコースでどのようなレースが繰り広げられるのか、正直全く予想できないのが本音であるが、主催者の独断と偏見で、勝手にレースの展開を予想してみたい。

まずはなんと言っても、100マイルというレースで実績を上げ続ける最強戦士達土井選手、大瀬選手がトップ争いを繰り広げることは間違いないだろう。
特に山力と言った点からすれば、土井選手は頭1つ抜けた存在と考えられる。
先日行われ、途中中止となってしまったTJAR（トランスジャパンアルプスレース）の走り、breaking20を達成した大峰奥駈道FKTの走りからも、山岳要素の強い本コースにも十分対応してくることが予想される。
一方、大瀬選手はレース自体を楽しみながら、中盤辺りの僅かに現れる走れる区間で、一気に突き放す走りをすることが想像される。
2018年のUTMF以来の彼らの併走を思い出さずには居られない。

この2人に待ったをかける選手としてまず期待したいのが、黒河選手である。
山岳要素の強いレースでの実力は誰もが認めると共に、誰よりも泥草く、雑草魂と勝利への執念で、下克上を試みる。勝負レースは逃さない。再び彼の雄叫びを聴くことを想像せずにいられない。

一方泥草さが要求されるという観点からは、飯野選手、若岡選手といったグレートレースでもお馴染みの2人の絶対的なアドベンチャー感はレース後半で大きく揺れ動くことが予想される。
長時間の行動を得意とする彼らは、ネジの飛び度合いは他のどの選手よりも格段に上である。

これがこの狂った恐ろしいコースにどのように表現されるのか楽しみでならない。

更にここに加わるのが、急遽参戦を決意してくれた別府選手や過酷な山でばかり遊ぶ福井選手、TJAR戦士の江口選手ではないだろうか。
どんな過酷な状況も楽しんで走るの別府選手、過酷な山々を淡々と進む福井選手、TJARで鍛えあげられた江口選手がこの狂ったコースすらも楽しんでしまうのではないかとすら思える。

また、実力値から冷静に判断した時に最も注目すべき選手は板垣選手ではないかと考える。
レース中も大きく目立つ走りではなく、淡々と熟しながら常に上位で勝負している。
たらればにはらなってしまうが、先日行われた「LAKE BIWA 100」でも1時間近くロストしながら3位に入賞し、ロストしていなければ優勝争いも期待された。
どのレースでも常に圧倒的な実力を現す彼の走りがどのような結果を導くのか楽しみでならない。

また、
地元丹波のレースに誰よりも強い思いを持って挑む田口選手は、このレースのために身体を改造し、恐ろしいハードトレーニングを積みながら、何度も試走。
更に同じチーム員で圧倒的な安定感を誇る北野選手は過酷な状況になればなるほど実力を発揮する選手で、丹波の地へも何度も足を運んでおり、このコースへの適正はNo.1ではないかと思われる。

昨年行われた「黒井城トレイルランニングレース 50マイル」で唯一の完走者となった稲次選手も地元の地のりを活かしてレースを大きく動かすだろう。
正直他のどこに行くよりも本コースはこの地での経験値をいかに積むかがレースに最も大きな影響を与えると考えられるため、どのようなレース展開をするのかが楽しみである。

一方で初100マイルながら、確かなスピードと実力を持ち合わせる若手選手として、松原選手、市毛選手、山本選手に注目したい。
タイプとしては其々異なるが、特に100kmまではスピードを活かし、松原選手、市毛選手はトップ争いに加わることが予想される。
一方山本選手は最後まで粘る走りをするタイプの選手で、4月に開催された《pre-stage》でも総合2位に加わった実力の持ち主である。

また、先日行われたくろんど輪舞曲でワンツーフィニッシュを果たした安井選手、伊藤選手の確かな実力にも注目。

丹波のレースの経験を活かして川畑選手、稲垣選手、古川選手も上位入賞が期待される。

女子でこのレースにチャレンジしてくれる谷口選手、若林選手にも大注目。
女性でこのレースを完走したら歴史に残る英雄となることは間違いない。

名前を記載しなかった選手も確かな実力者が揃った本レース。
この豪華揃いのメンバーが自ら作りあげた夢のコースでどのような展開を繰り広げるのか楽しみでならない。

しかしながら、コース全てを知った上で、現実的には完走者は15名前後を予想している。
D+16000m前後のレースなど、だれも経験などないはずで、120kmを越えてから誰もが未知の世界を経験することになるだろう。

70時間という長い制限時間の中、最後までフィールドに立てる人間が何人居るだろうか。

本日**13:00**その歴史に残る伝説のレースがスタートする。